

## 第8回 外国人技能実習生等受入適正化推進会議

平成26年1月20日、「第8回技能実習生等受入適正化推進会議」がホテルグランヴェール岐山で開催されました。

この会議は、岐阜労働局が主催し、平成18年から毎年開催しており、会議には名古屋入国管理局、国際研修協力機構、岐阜県、岐阜県警察本部、関係市などが参加（20機関：33名）し、入管法・労働関係法令の遵守など外国人技能実習制度の適正な受入に向けた取組を行っています。



会議は羽山座長（朝日大学大学院教授）により進行されました。

佐々木労働局長からの挨拶の後、各機関からの取組状況報告等がありました。各機関で受入適正化に向けた様々な努力がなされているものの、一部で悪質化がさらに進んでいること、一方で一部には改善に向けて努力しているところも出てきたという声がありました。

岐阜労働局松野監督課長からは、平成25年の県内の受入事業場に対する監督指導結果について報告があり、「違反率は過去最高水準で85パーセントを超えており、悪質な隠蔽行為も2割を超えている。司法処分を含めた厳正な態度で臨む。」と説明がありました。

また、今回の会議では、受入事業場に対する監督指導状況について動画を上映し、立入調査時の監督官への虚偽の説明などの実態報告や摘発状況等について具体例に基づき説明がありました。

最後に、岐阜労働局からの提案で、今年度も引き続き監理団体のほか、業界団体に対して、適正な制度運用に向けた取組について、要請文を送付することが確認されたほか、「悪質な事業場には厳しく対処する一方、自主的に改善しようとする監理団体や受入事業場もあることから自主的改善を促進するツールを関係機関と協力しながら作成してゆく取組を進めていきたい。」との説明が行われ、了承されました。

